長野県立美術館
NAMコレクション2023　第Ⅱ期

長野県立美術館では、「NAMコレクション2023第Ⅱ期」を下記のとおり開催します。ぜひ取材をお願いします。取材を希望される場合は、当館広報担当まで事前にご連絡ください。

NAMコレクション2023　信州出身の作家たちや、信州の風景が描かれた作品を中心に形成された、長野県立美術館のコレクション。一年を通して、洋画、日本画、工芸等さまざまなジャンルの収蔵品を展示します。

1　会　　期　2023年(令和5年)5月18日(木)～7月25日(火)
＊休館日＝毎週水曜日

2　会　　場　長野県立美術館　2F　コレクション展示室

3　開館時間　9:00～17:00（展示室への最終入場は16:30まで）

4　観 覧 料　（本館･東山魁夷館共通）
一般700円、大学生及び75歳以上500円
高校生以下又は18歳未満無料

5 内　　容

NAMコレクション2023第Ⅱ期では、信州高遠で青年期を過ごし、今年で没後80年を迎える中村不折や、上田市出身の林倭衛など明治から昭和にかけて西洋に渡り学んだ美術家たちの作品を紹介します。また、同時期に開催される企画展「超絶技巧、未来へ！ 明治工芸とそのDNA」(～6/18)、「葛飾北斎と３つの信濃～小布施・諏訪・松本～」(7/1～8/27)にちなんで、絵師・彫師・摺師の分業体制で制作される「新版画」を特集します。

中村不折《裸婦立像》
1903-1904年、油彩・カンヴァス

林倭衛《婦人像》
1922年、油彩・カンヴァス・板

■展示構成

①洋画・日本画・彫刻コレクションから

1901年から4年間パリで学んだ中村不折や、1921年に渡欧したのち一時期セザンヌに傾倒した林倭衛らによる渡欧期の作品や、菊池契月の日本画、荻原碌山の彫刻作品などから、同時代の西洋美術からの影響や関係性を概観します。

②信濃デッサン館コレクションから

1901年に渡米し、ニューヨークの美術専門学校で学んだ彫刻家・版画家として知られる戸張孤雁のデッサンを紹介します。

③特集展示：新版画の技巧

伝統木版の技術を受け継いだ分業体制のもと制作される新版画は、彫りや摺りの工程において高度な技術を必要とします。今回は、同時期に開催される企画展に連動して、信州の風景を題材とした新版画作品を中心に、技巧的な側面からその表現を掘り下げます。

吉田博《穂高山(「日本アルプス十二題」の内)》
1926年、木版・紙

■関連イベント

担当学芸員によるギャラリートーク（申込不要）
日時：6月17日（土）14：00～　場所：コレクション展示室　参加費：無料（ただし観覧料は必要）

●報道関係のお問い合わせ

長野県立美術館　広報･マーケティング室　〒380-0801 長野市箱清水1-4-4(善光寺東隣)
TEL:026-232-0052/FAX:026-232-0050/E-MAIL:nam-pr@naganobunka.or.jp

長野県立美術館
Nagano Prefectural Art Museum